

## 県外派遣報告書

審判員名	中西 功	所属	ミニ連盟
大会名	第三十六回 関東ミニバスケットボール大会 群馬大会		
期間	平成27年1月11日(土)・1月12日(日)		
会場	ALSOKぐんまアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月10日(土)	審判会議・講義	ALSOKぐんまアリーナ	
1月11日(日)	予選リーグ	ALSOKぐんまアリーナ	
1月12日(月)	決勝リーグ・閉講式	ALSOKぐんまアリーナ	
会議 講義 内容			
<p>佐藤 弘之氏より、良い判定をする為に『気づき』について講義がありました。良い審判になる為に審判とはそれぞれがリスペクトしゲームを成立させる一員である事。それに対し求められる事は、プレイの理解・フィットネス・ルールの理解・4原則であると意識し、ゲーム中ではあらゆる事に目を向け気づく為に足を使い判定しに行くことの重要性を学びました。何が起こるかは審判は決められない、問題が起こる前に気づき準備し、気づきが遅れてしまうと笛が鳴らず審判としての役割が全う出来ていない。また4原則の理解、知っているだけでゲームに活かしてない事が多いのではないかと。ボクシングイン・プレイの始まりを目に入れる役割分担。オールウェイズムービング・より良いスペースを探し続ける。スペースウォッチ・スペース取りの配分、自分の責任エリアの始まりを意識する。ペネトレイト・最終的な、積極的なポジショニング。最後に、気づき足を運び必死に対応し続ける→ゲームがうまく進行して行く。</p>			

実技				
担当試合	期 日	1月11日(日)	女子	
	対戦カード	岩井第一(茨城) VS 菊間(千葉)		副審
	相手審判	泉 氏(茨城)		
ミーティング内容		主任 宇田川氏(神奈川)		
<p>佐藤氏の講義内容にもあった様にあらゆる場面での、気づく為の情報収集をする事と、正しい判定位置を常に求めていきましょうというプレカンファレンスでした。ゲームでは岩井第二の170cmの選手がゲームを支配する前半でしたが、後半になり菊間がオールコートマンツーマンで激しく当たり始め、特に長身選手のフラッシュプレイに対し手を使って行かせなかったり、ボールが入った瞬間の後ろからの接触に対してもう少し判定してもよかったのではないかと。正しいポストの守り方と負けている守り方は判断、それに対しどう影響しどういう結果になるかまで準備し判定しなくてはならない。</p>				
全体の感想				
<p>ミニバスでの女子の170cmは圧倒的な高さである。しかし、長身だからといって正しいポジション取りや、ボックスアウトが要求される。競り合いの中でディフェンスのオフボールでの後方からの接触や、ポジションを取らせない為の守り方にもう少し判定を出来れば良かった。またスクリーンプレイに対しての自分なりの強い判定基準をもっと示してもよかったのではないかと。ディフェンスの抜き際の手の使い方、影響ある手の使い方の予測イメージと素早い判定を増やしていきたいと思います。お互いの協力という面では、お互いの距離がプレイヤーから離れていると気づき、3番エリアやベンチ前などトレールがプレイを意識し適切なポジショニングをもっと求められればと思います。</p>				
実技				
担当試合	期 日	1月11日(日)	男子	
	対戦カード	竜王(山梨) VS 高崎北部(群馬)		副審
	相手審判	伊東 氏		
ミーティング内容		主任 掛川 氏		
<p>1試合目の反省を活かせるように、前日に佐藤氏の講義にあったボクシングイン・プレイの始まりを見る事と、二人の距離が広がらないように足を使い判定をしようと意識しました。男子という事で選手がどんなプレイをしたいのか、それが最後まで出来るのかをしっかりと判定したいと思いました。またトレールで3番エリアのプレイから離れすぎないように注意し、リードに安心感を持ってもらえるように意識しました。</p>				
全体の感想				
<p>両チームともハードコンタクトが少なく、ドライブで仕掛けて1対0を作ることに長けているチームでした。それ故に最後の合わせまでボールから目が離せず、お互いの審判が何処を見るかが非常に大事だと痛感しました。リードの役割、トレールの役割をもっとはっきりと明確に示すことが出来れば、もう少しすっきりとしたクリーンなゲームができたのではないかと思います。</p>				

実技				
担当試合	期 日	1月12日(月)	女子	
	対戦カード	西方(栃木) VS 上暮地(山梨)	副審	
	相手審判	一色 氏		
ミーティング内容		主任 地引 氏		
<p>前日の予選リーグも終わりチームとして優勝を意識して試合をしてるので、まずは選手たちのやりたい事、ベンチのやりたい事を感じつつ判定をしていきたいと思いました。プレゲームカンファレンスでは1対1の最終的なポジションを求めつつ決めていく決心と意識、3番エリアに対してトレールがしっかり見に行き、お互いの見るべきプレイを捉えようと話し合いました。また、リバウンドのボックスアウトの整理と、ボールキープするまでしっかりと見てNEWリードは次のプレイに対応する準備をする事。</p>				
全体の感想				
<p>上級の一色氏とコートに立てるという事で自分の日頃積み重ねている事を全て表現できるように、そして感じて頂けるように意識しました。一色氏は非常に判定が早く迷いが無い感性が鋭い印象でした。お互いのチームはオールコートマンツーマンでハードコンタクトではあるが体が強くディフェンスでもコースに入る意識の強い選手が多く見受けられ、判定する場合に選手の最初の位置であったり、オフェンスがどのようにパスを出したか、またコースはどうだったか多くの情報を入れ判定に繋げるとも勉強になるゲームでした。一色氏よりプレイを見すぎてしまっているから、感性をもっと大事にする様にとご指導頂きました。</p>				
実技				
担当試合	期 日	1月12日(月)	男子	
	対戦カード	新田(群馬) VS 藤代(茨城)	主審	
	相手審判	小林 氏		
ミーティング内容		主任 泉 氏		
<p>両チームともハーフコートマンツーマンでしっかり守り、ボールマンプレッシャーをかけつつパスカットに飛び込むデフェンシブなチームでした。アウトサイドシュートが長けていて、ドライブからコーナーに合わせてシュートを打つチームプレイが多く、ボール中心にならないように意識しました。また主審といことでコミュニケーションとお互いの協力ができるようにゲーム中に申し合わせをしっかりと行っていました。5番のエリアでリバウンドからのセカンドショットに対してお互いが同じ個所をみてしまっていたので今後は役割分担を確実にしていきたいと思います。</p>				
全体の感想				
<p>今回、自身にとって初の県外派遣の主審でコートに立たせて頂き、副審との大きな違いを感じることが出来ました。ゲームの始まりから終わりまでスムーズに進行させ、ゲーム中ではベンチに紳士に向き合う事と、佐藤氏の講義でもあったように常にニュートラルな立場で考え行動し適切な対処を行っていく事の大切さ、ゲーム管理をしていく事を今後も課題とし日々精進していきたいと思えます。</p> <p>最後になりますが大会期間中に群馬県の皆様や他県の方々に大変にお世話になり感謝申し上げます。この経験を自身の力にし、後進にしっかりと伝えたいと思えます。有難うございました。</p>				